

総務教育常任委員会資料

(令和8年10月8日)

【件名】

- ・教育委員会におけるカスタマーハラスメント対策について（教育総務課）・・・ 2
- ・高等学校等教育改革促進事業の採択結果について（高等学校課）・・・ 3

教 育 委 員 会

教育委員会におけるカスタマーハラスメント対策について

令和8年10月8日
教 育 総 務 課

令和8年10月1日の改正労働施策総合推進法施行により、事業主にカスタマーハラスメントへの対策が義務付けられたことに伴う、教育委員会の取組について報告します。

1 概要

- 社会通念上許容される範囲を超えた言動については、管理職を中心に組織で対応するなど対応方針を明確化した。
- 新たに県立学校用のマニュアルを整備し、初期対応や社会通念上許容される範囲を超えた言動への具体的な対応手順を明記して、現場の教職員が適切に対応できる体制を整えた。
- 従来の相談窓口に加え、対応が困難になった事案への対応を学校等に代わって直接弁護士が担う体制を構築するなど相談体制を強化した。
- 取組を推進するため、ポスター掲示等による啓発活動を実施する。

2 主な取組内容

(1) 「鳥取県教育委員会カスタマーハラスメント対策に係る基本指針」の策定

事業主の方針、判断基準、発生後の対応、相談体制などを明確に記載した基本方針を策定し、ホームページ等で公表した。この基本指針に基づき、保護者や地域住民等からの要望等を受け止めつつ、教職員がいきいきと教育活動にまい進できる環境づくりを推進し、子どもたちへの教育活動の充実につなげていく。(10月1日施行)

＜基本指針のポイント＞

- ・学校等に寄せられる要望等には誠実に対応し、信頼される教育行政の実現に努めること
- ・一方で、社会通念上許容される範囲を超えた言動については、管理職が中心となり毅然と適切に対応すること

(2) [県立学校用]「教職員に対する要望等への対応マニュアル」の策定

基本指針のポイントに基づき、県立学校用の対応マニュアルを新たに整備し、ホームページ等で公表した。(10月1日施行)

＜県立学校用対応マニュアルのポイント＞

- ・保護者等から要望等があった場合の初期対応や、社会通念上許容される範囲を超えた言動への対応の流れや留意点を明記

※教育委員会事務局内の所属は、従前どおり知事部局に準じて「不当要求行為等対応マニュアル」に基づき対応する

(3) 対応困難な事案に係る支援体制の整備

従来の法律相談窓口（※）に加え、所属や学校だけでは対応が困難となった事案について、弁護士が所属や学校の代理人として法的文書の作成、相手方との話し合い等を行う体制を構築し、教職員の負担軽減を図る。(10月1日運用開始)

(※) 学校等の諸課題を解決するため、弁護士に相談業務を委託して法律相談窓口を設置 (H23～)

(4) 啓発ポスターの掲示

社会通念上許容される範囲を超えた言動の未然防止に繋げるため、県立学校及び事務局所管の各施設（博物館、図書館等）にポスターを掲示する。(9月下旬以降順次掲示)

(5) 県立学校の電話録音及び録音告知アナウンスの開始

要望内容等を正確に記録してその後の適切な対応に繋げるため、県立学校に寄せられる電話を必要に応じて録音する。また、録音する場合があることを予めお伝えするため、冒頭の自動アナウンスを開始する。(10月以降順次電話機を改修し、12月末までに全県立学校で運用開始予定)

高等学校等教育改革促進事業の採択結果について

令和 8 年 10 月 8 日
高等学校課

- 高校教育改革推進のパイロットケースとして先導拠点校を創設するための高等学校等教育改革促進事業について、追加第 1 回公募（8 月 10 日㍻）に申請していたところですが、9 月 15 日に以下のとおり採択結果が公表されました。（全校満額採択）
- 今後、産業界、大学等と一体となり、地域全体で社会状況の大きな変化が予想される 2040 年の社会に必要とされる力を育成できる環境を作るとともに、地域や日本、世界を支える人材育成を推進します。
- また、令和 9 年度に国が創設予定の高等学校教育改革交付金（仮称）等を活用し、先導拠点校以外の高校も含め、産業界等と一体となり、教育改革を進めていきます。

1 採択結果

全校採択

採択額 6,048,241 千円（申請額と同額）（補助上限 62 億円程度）

類型		学校名	事業計画	事業費上限額
1	アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成（専門性高度化）	鳥取工業	地域の持続的発展に貢献する人材育成に向けたドローン技術等 DX・AX 技術の学びの拠点形成	27.2 億円
		倉吉農業	確かな基礎知識とスマート農業の融合による農業経営の学びをとおした次世代の農業の担い手育成拠点形成	14.6 億円
2	理数系人材育成	鳥取西	探究の高度化をとおした社会の進歩をリードする国際性豊かな理数系人材の育成拠点形成	8.8 億円
3	多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保	境港総合技術	支援を必要とする生徒の居場所づくりと体験を伴う教育活動拠点形成	9.9 億円
			地域と連携した「社会的自立」と「地元産業人材育成」プロジェクト	

2 今後のスケジュール

9 月 30 日（水）	高校教育改革推進コンソーシアム第 2 回部会（分科会）開催 ・専門性高度化部会（工業分科会）（鳥取工業高校） ・理数系人材育成部会（鳥取西高校） （会場：各先導拠点校）
10 月 1 日（木）	高校教育改革推進コンソーシアム第 2 回部会（分科会）開催 ・専門性高度化部会（農林分科会）（倉吉農業高校） ・地域連携・多様な学習ニーズ部会（境港総合技術高校） （会場：各先導拠点校）
10 月 27 日（火）	高校教育改革推進コンソーシアム第 2 回全体会開催 （会場：県庁）

3 その他：全国の採択状況

追加第 1 回公募では、28 都道府県から 72 の学校等が申請。60 の学校等が採択された。

県内4校を教育改革の先導校へ ～2040年に向けた「N-E.X.T.ハイスクール構想」

類型1
専門性
高度化

地域の持続的発展に貢献するドローン技術等
DX・AX技術を兼ね備えた人材育成

鳥取工業高校（工業）

主な連携校／八頭高校、倉吉総合産業高校、米子工業高校

■産業界の実態に応じた教育課程の実施

ドローン技術（操作、プログラミング、データ分析）に関する学びの推進



化学実習棟を改修し、「ドローン飛行場」を整備。
測量・農業・インフラ点検・災害現場などドローンを活用する現場で即戦力となるドローン技術を持った人材を育成します。

【主な整備内容】

- 室内ドローン飛行場
- 実習用ドローン

実社会で用いられる設備による実践的学びの推進



校内の学科横断に加え、大学、企業と連携した共同研究を行う場として「DXラボ（仮称）」を新築。
3Dスキャナ、金属3Dプリンタなどを配備し、学科の枠を超えて多くの生徒が同一空間で活動し、互いに刺激を受けて発想の幅を広げる工業教育の拠点とします。

【主な整備内容】

- DX・AXラボの整備
- 3Dスキャナ、金属3Dプリンタなど産業界で実際に用いられている高度最新機器の導入

地域の持続的発展への貢献



（画像は全てイメージです。）

新築するDXラボ内に「モーションキャプチャ室」を整備し、先端IT技術の連携を学びます。
熟練技能のデータ化により伝統技術・工芸技術の継承につなげる研究に取り組みます。

【主な整備内容】

- モーションキャプチャー用カメラ
- モーションキャプチャー用グローブ
- モーションキャプチャー用スーツ

地域人材育成拠点

地域の小中学校や企業にも施設を開放し、地域全体で工業人材（理数系人材）育成に取り組みます。

■教育課程の再設計

1年：共創・DX基礎

全生徒必修「デジタルプロトタイピング」でCAD・ドローン等の基礎を体験

2年：専門深化

国家資格の基礎学習に加え、CAE解析・VR訓練等の先端機器実習へ発展

3年：実践・経営発信

学科横断PBL「地域インフラのDX点検・防衛プロジェクト」

県内4校を教育改革の先導校へ ～2040年に向けた「N-E.X.T.ハイスクール構想」

類型1
専門性
高度化

確かな基礎知識とスマート農業の融合による農業経営の学びを
とおした次世代の農業の担い手育成

倉吉農業高校（農業）

主な連携校／鳥取湖陵高校、智頭農林高校、鳥取商業高校、倉吉総合産業高校

■スマート農業のさらなる推進

最新機器の操作技術の習得とデータ分析能力の育成
に力点を置いた「スマート農業の推進」



〔主な整備内容〕

- 無人コンバイン、自動田植機の導入
- 遠隔制御装置導入による圃場監視
- 温室等の自動環境制御装置
- ロボット草刈機、自動追従型運搬車
- GPS 自動操舵トラクター 等

■スマート畜産による和牛飼育の学びの充実

和牛王国鳥取を担う畜産人材育成のための「牛舎整備（和牛舎新築、乳牛舎改修）」整備



〔主な整備内容〕

- 和牛舎の新築（自動調整換気・照明システム）
- 自動除糞システム
- 活動監視システム、分娩監視システム
- 超音波妊娠診断装置
- 餌寄せロボット 等

■教育課程の再設計（年次別の学びの構造）

（画像は全てイメージです。）

1年：基礎・可視化



2年：応用・データ分析



3年：実践・経営発信

栽培・畜産の基礎、データで社会を可視化

スマート農業機器を用いた応用実習

農業大学校との共同研究、経営発信

地域と連携した人材育成の推進

- 地域の農業関係者を講師として招へいし、実践的な技術を学ぶ機会を得るとともに、牛舎やスマート農業機器を地域に開放し、地域農業を先導する地域拠点とします。
- 県立農業大学校との5か年一環の教育や高等教育機関と連携した共同研究等をおし、高度な理論や学びを実践するとともに、次世代の農業運営・経営の開拓に挑戦します。
- 高校、地元企業、高等教育機関、行政が連携し、次世代農業の実現及びその運営・経営に必要な人材育成を進めます。

県内4校を教育改革の先導校へ ～2040年に向けた「N-E.X.T.ハイスクール構想」

類型2
理数系
人材育成

探求の高度化をととした社会の進歩をリードする
国際性豊かな理数系人材の育成

鳥取西高校（普通）

主な連携校／鳥取東高校、倉吉東高校、米子東高校

■研究ラボの整備

宿泊施設や共同研究のためのコワーキングスペースを兼ね備えた高度研究ラボを整備します。
研究者等を招へいし、共同研修、共同研究をすることで学習内容を深めます。



夜間にしかできない観測や昼夜を通した長時間の継続的実験等が可能な「セミナーハウス（既存施設改修）」の整備

産官学と連携した高度な研究拠点及び海外大学等との協働的探究活動の場として「研究ラボ（第3校舎改修）」を整備
70を超える文理横断型授業の舞台となります。

[主な整備内容]

- 顕微鏡、3Dスキャナー、3Dプリンタの導入
- 情報系機器の整備（高性能パソコン等）

（画像は全てイメージです。）

■教育課程の再設計

step1：データ実感

データで社会を可視化する

step2：文理融合・課題解決

文理融合クラスで課題を洞察

step3：社会実装

外部専門家と提言・発信

地域と連携した人材育成の推進

■海外連携、共同研究

- ・ 国内外大学・高校との共同研究
- ・ テクノロジー・スタートアップ企業との連携
- ・ 語学研修プログラムの構築

■地元企業、大学との産官学連携プログラムの構築

- ・ 探究活動における連携（講師、専門家派遣）
- ・ 課題研究、共同研究のコンソーシアム構築

■協力校との共同研究

- ・ 進学拠点校等との共同研究・研究発表会の開催

■グローバルビジネスアントレプレナーシップ教育の推進

- ・ 企業と連携し、生徒が考案したアイデアのビジネス化

■探究アドバイザー・探究メンターの配置

- ・ 生徒がより高度で幅広い知見を基に探究活動を推進できるよう、助言できる人材を配置（卒業生、地域の専門家等）

■近隣小学校、中学校への開放

- ・ 地域に開放し、学校の枠を超えた探究活動の実施
- ・ 近隣小中学校児童生徒に対して数学・理科実験教室の開催
- ・ 小中学生の頃から高度研究を体験することで、理数系人材育成のすそ野を広げる

関係機関／鳥取大学、公立鳥取環境大学、鳥取看護大学、鳥取短期大学、海外大学、海外高校、産業技術センター、金融機関、鳥取市、
地元企業 等

県内4校を教育改革の先導校へ ～2040年に向けた「N-E.X.T.ハイスクール構想」

類型3
多様なニーズに
対応した教育機会の確保

様々な背景を持つ生徒の居場所づくりと地域を教材とした体験を
伴う教育活動をととした自己有用感の回復と社会的自立

境港総合技術高校 (水産／工業／福祉)

主な連携校／境高校、日野高校、鳥取緑風高校、米子白鳳高校

■様々な背景をもつ生徒の居場所づくり

ステップ1 実習現場と自宅をつなぐ

特に不登校傾向がある生徒に、自宅にいながらでも専門的学びができる環境を提供し、学びのきっかけをつくります。

ステップ2 実習現場とコミュニケーションルームをつなぐ

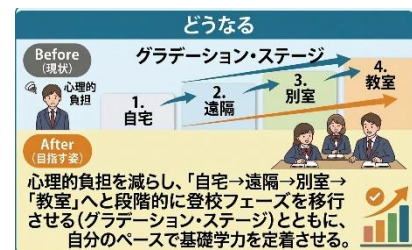
体験的学びへの興味から、登校につながった生徒に対して、まずは、教室とは異なる居場所（コミュニケーションルーム）を提供し、実際の実習への参加に道筋をつけます。

ステップ3 実習現場と教室をつなぐ

「遠隔配信システム」を整備することで特色ある専門的学びを他校へ広げ、県全体へ質の高い専門学科の学びを広げます。

【主な整備内容】

- 遠隔配信システムの整備
- コミュニケーションルームの整備



体験的教育活動の充実、環境整備

【主な整備内容】

- 乗船実習や過酷な屋外実習への苦手意識・心理的負担から実習参加を躊躇していた生徒に対し、快適かつ心理的に安全な校内ラボ環境で、水中ドローンが収集した海洋データの解析やプログラム制御にじっくり没頭できる新しい学びの場として「水中ドローン・ビッグデータ解析ラボ」を整備します。
- 手順や見通しの曖昧さに不安を感じやすい特性を持つ生徒にとって、食品製造プロセスは「ルールと衛生管理が徹底された安心できる環境」になり得ます。タブレットによるチェックリストで工程順に表示し、加熱温度・圧力・時刻を一項目ずつ記録することで、「次に何をするか」で迷わない HACCP 準拠の「スマート・フードラボ」を整備します。
- 対人不安や「間違えたらどうしよう」という強い失敗恐怖を持つ生徒に対し、何度失敗しても安全で、手元カメラなどを通じてペア作業も自分のペースで行えるバーチャルな試行錯誤の場を提供する設備を備えた「モビリティ実習棟」を整備します。
- 他者の感情に特に敏感な生徒や生身の対人関係に疲弊しやすい生徒に対し、アバター対話やタブレットでの映像振り返り等を介して、心理的圧迫感のないフィルター越しに段階的な対話・介護技術を学ばせる拠点として「地域交流・福祉 ICT 活用スタジオ」を整備します。



(画像はすべてイメージです。)

■教育課程の再設計 (個々の状態に応じた段階的な学び)

グラデーションステージ 【環境整備】

生徒の状態に応じて柔軟に学びへアプローチできる段階的環境を整備。

マインド・羅針盤 【振り返り：全科共通】

作業中の感情・疲れやすさなど自分の心身の状態を言語化し、「得意・苦手」や特性を客観的に捉える自己理解を深める。

COCORO-NAVI 【学校設定科目：1年次】

アンガーマネジメント等の心理教育、福祉科と連携した外部施設交流。『マインド・羅針盤』と連動し、自身の強みや興味を模索。

ダイバース・プロジェクト委員会 【組織体制】

校内の特別支援教育・生徒指導体制を統合した専門組織。個別の支援計画・指導計画を作成・評価

関係機関／鳥取大学 公立鳥取環境大学、鳥取看護大学、鳥取短期大学、漁協、地元企業、境港市 等

施設整備スケジュール(予定)

